

平成18年度 宗像市立小・中学校教員

社会体験（職業体験）研修のまとめ

1 今年度研修参加人数 教員 104名（平成19年度予定人数：132名）

	平成18年度	平成17年度	平成16年度
サービス業関係	59名(15名)	59名(7名)	40名
福祉関係	45名(2名)	42名(2名)	54名

※（ ）内の数字は、市教委が準備した研修先以外で研修した人数

2 研修事業所先 36

	平成18年度	平成17年度	平成16年度
サービス業関係	23(11)	24(6)	18
福祉関係	13(2)	16(2)	14

※（ ）内の数字は、市教委が準備した研修先以外の事業所

3 成果（○）と課題（●）

(1) 研修期間の長さ

- 3日間の研修は、参加者の85%（平成17年度：77%、平成16年度：65%）が「ちょうどよい」と答えている。

(2) 研修の有効性

- 参加者の81%（平成17年度：79%、平成16年度：77%）が「研修を通して企業（施設）の現場を知ることが有効である」と答え、参加者の83%（平成17年度88%、平成16年度：85%）が「研修の体験を活かしたい」と答えている。

また、今回の研修で理解が深まったことについては、【表1】のようになっている。

【表1】今回の研修によって理解が深まったこと

平成18年度	平成17年度	平成16年度
チームワークや人間関係の大切さ（73%）	チームワークや人間関係の大切さ（72%）	企業（施設）や仕事の仕組み（66.7%）
企業（施設）や仕事の仕組み（68%）	企業（施設）や仕事の仕組み（67%）	企業（施設）で働くことの苦労や面白さ（65.5%）
企業（施設）で働くことの苦労や面白さ（68%）	企業（施設）で働くことの苦労や面白さ（62%）	チームワークや人間関係の大切さ（63.1%）

【本研修を受けての感想から】

- ◇一生の中でも経験できない貴重な体験をさせていただいて多くのことを学ばせていただいた。企業で働くことの大変さを感じるとともに、教師という仕事が大変な面はあるもののいかに恵まれているかということも感じた。今回は、人と接する仕事を体験させていただき、人と接する際の大切さは「真心と感謝」であることを学んだ。学んだことを謙虚に、そして、真心を持って子どもと接していきたい。
- ◇お客様からのクレームにも丁寧に対応され、主体的にお客様と話し合われる姿に仕事に対する責任感の強さを感じました。また、職員の皆さんの生産者やお客様への自然な心遣いがすばらしかったです。私も、子どもたちや保護者の皆様に喜んでいただける心遣いが自然にできるよう努力したいと思います。
- ◇3日間職業体験を行い、企業の現場に触れ、いろいろな仕事を行いました。企業の数値目標に対する姿勢は学校現場でも活かしていけるものだと思います。教育とは、まったく異なる仕事でも人と人とのふれあいがもとであることを考えると活かせるものはたくさんあると思います。また、私自身、今回の研修が始めての体験で不安いっぱいの中、研修が始まりましたが、現場の方々が皆さん優しく接して下さり、無事研修を終えることができました。これを現場に置き換えて考えると、学年始めに初めて学校、新しい学級で不安いっぱいの子もたちや普段の生活でもいろいろな場面で不安を持っているような子どもたちを安心させられるような支持的風土作りの大切さを痛感しました。
- ◇現在担任している子どもたちが、将来、職場で働くとき、どんな力が必要かを考えながら、本研修を行った。一番つけてやりたい力は、他人とコミュニケーションをとる力だと思った。次に、様々な状況に関わらず、自ら自分の役割を見出し、実践していく力だと思った。本研修で子どもたちの将来を見据え、現在、2年生の子どもたちにつけなければいけない力は何かを考える視点が自分の中に加わった。
- ◇現在特学を担任しており、のぞみ園という就学前のお子さん、お母さん方の療育の様子、子育ての様子を知ることができたことは、今、受け持っている子どもたちの生育歴、親御さんの心情などを推し量ることができたという点からも、必要とされる支援を学ぶという点からもよかったと思う。教育に携わる者として広い意味で、いろいろな人たちの生き方を学ぶ姿勢を持ち続ける大切さを感じた。
- ◆何を目的としているかよく理解できませんでした。それなりにおもしろいと感じるところはありましたが、「お客さん」の感じはぬぐいきれません。
- ◆離島である大島では、他校と違い、普段から島内外の他業種との接点が多い。その中で、他業種の状況を知らなければ、教育活動もうまくできない。その地区にこのような研修が強制される必要性はない。必要性がないだけでなく、日常の教育活動に与えられた負の状況が強い。よって、本研修は逆効果であり、やめていただきたい。また、アンケートを研修後かなり日がたっただき、いただいたと思うと早く提出せよという運営にも疑問を感じます。

また、参加者の研修態度について、すべての事業所が「積極的に参加していた」と答え、研修参加者が前向きに取り組んでいたことを認めていた。研修態度がよくなかったという報告はなかった。

- 実施要項には、管理職との面談を通して、本人がどんな課題を持って本研修に望むのかを明確にするようにしている。今後、校長研修会でその旨を明確にする必要がある。

(4) 研修の運営

- 昨年度の事績をもとに、教育政策課で分担して事業所を回り、31の受け入れ事業所を確保することができた。そのため、ほとんどの教員が第1希望の事業所先及び研修期間で研修することができた。
- 昨年度から、校長の判断により研修先及び研修時期をきめることができるようにした。その結果、17名の教員が自分で見つけ出した13の事業所で研修を実施した。

【例】 民宿、国民宿舎、農家 等

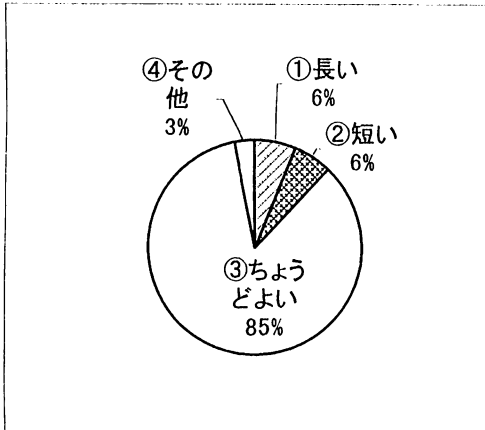
4 次年度の改善点

○ 事前指導の徹底と課題の明確化

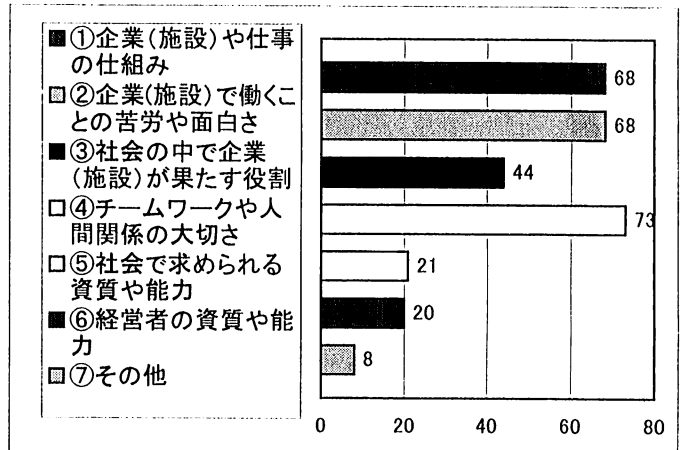
- 校長研修会で、再度、本研修の趣旨及びシステムの周知徹底を図る。

社会体験(職業体験)研修アンケート集計結果

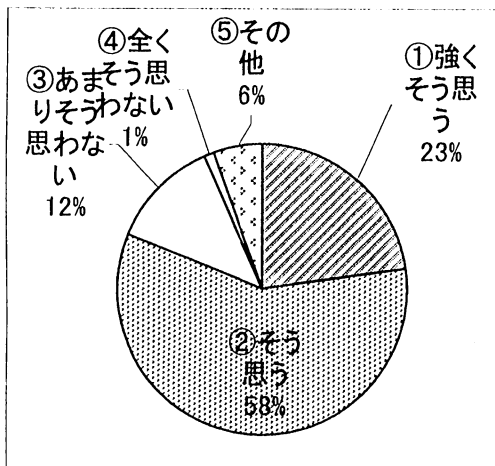
1 研修期間の長さはいかがでしたか。



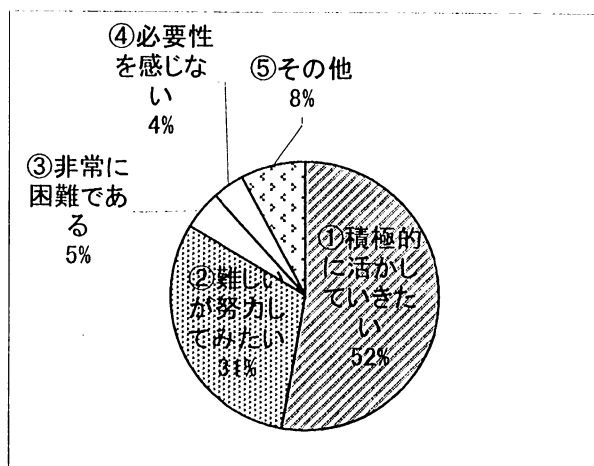
2 今回の研修によって、理解が深まったことは何ですか。



3 今回の研修を通して、企業(施設)の現場を知ることは有効だと感じましたか。

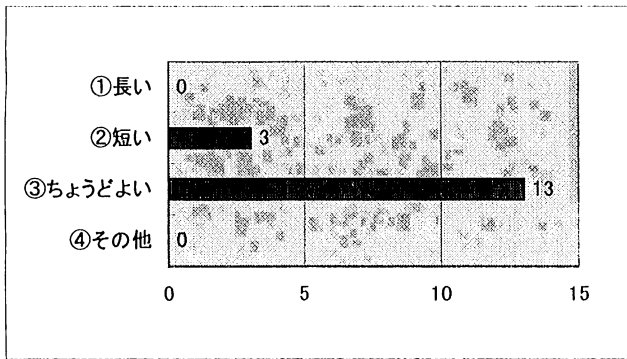


4 今回の研修の体験を教育現場へ活かすことができますか。

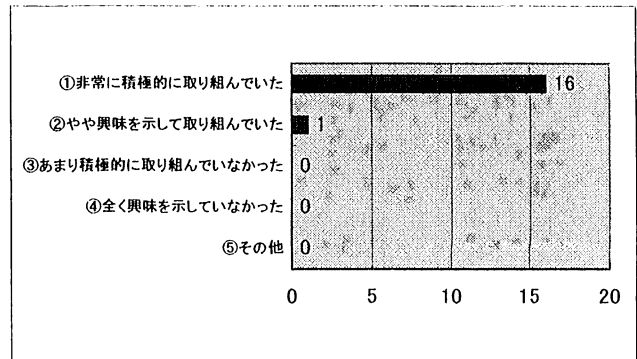


社会体験(職業体験)研修アンケート(受け入れ事業所用)

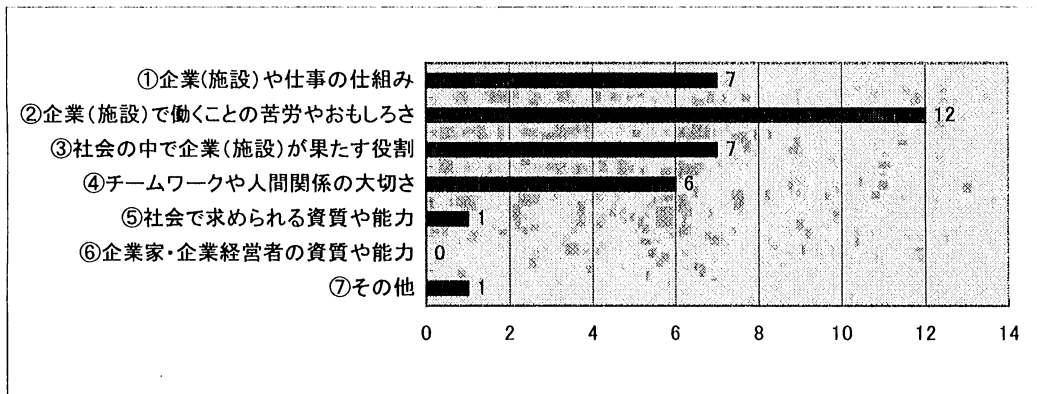
2 研修の長さはいかがでしたか？



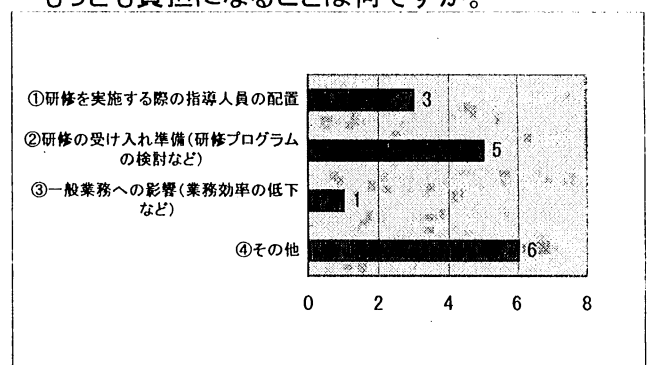
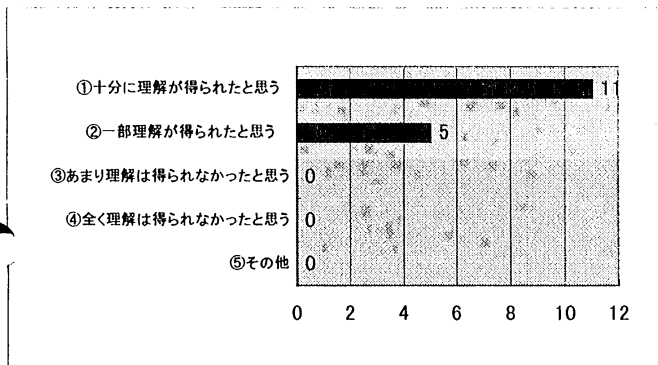
3 研修を受けた教員の研修態度はいかがでしたか。



4 今回の研修によって、教員に理解を期待したものは何ですか。



5 研修後教員に期待した理解は得られたと思いますか。 6 今回の研修で教員を受け入れる際、もっとも負担になることは何ですか。



7 今後もこのような研修で教員を受け入れていただけますか。

